



UDL 通信

新潟市立小須戸小学校

UDL 推進部

No.2

令和3年6月18日

学習時間より学習方略が成績に影響する!?

5月25日の朝日新聞「学びを『科学』する」で、ベネッセの木村治生さんが「学習時間より学習方略が成績に影響する」というタイトルで記事を書いています。東京大学とベネッセは、全国の小学校1年生から高校3年生までの子どもとその保護者の約2万人を対象とした「子どもの生活と学びに関する親子調査」を行いました。その分析を詳しく書いていました。詳しいことは、Web上の記事（資料箱「学内」→「先生のみ」→「UDL研修」）を直接読んでもらいたいですが、簡単にまとめると、下記ようになります。

- 学習の量である学習時間も、学習の質である学習方略も成績に影響する。
- 学習方略の方が学習時間より成績に影響する。

成績の影響力

学習方略 > 学習時間

- 学習時間や学習方略に影響するのは、学習意欲やメタ認知である。
- メタ認知は小学校高学年からつき始めるが、突然つくのでもない。小さい頃から学ぶことの価値や楽しさを教師や保護者が伝え、自ら考えることを促すことが大事である。

メタ認知の高まり

小学校低学年

中学年

高学年

中学校

- 学習意欲が高いほど学習時間が長く、学習方略を使う比率が高い。
- 大学での学習時間は高校の学び方に関係する。

学習時間の長さ

※ 左の学び方をしている高校生は大学での学習時間が長くなっている。

興味をもったことを自主的に勉強した

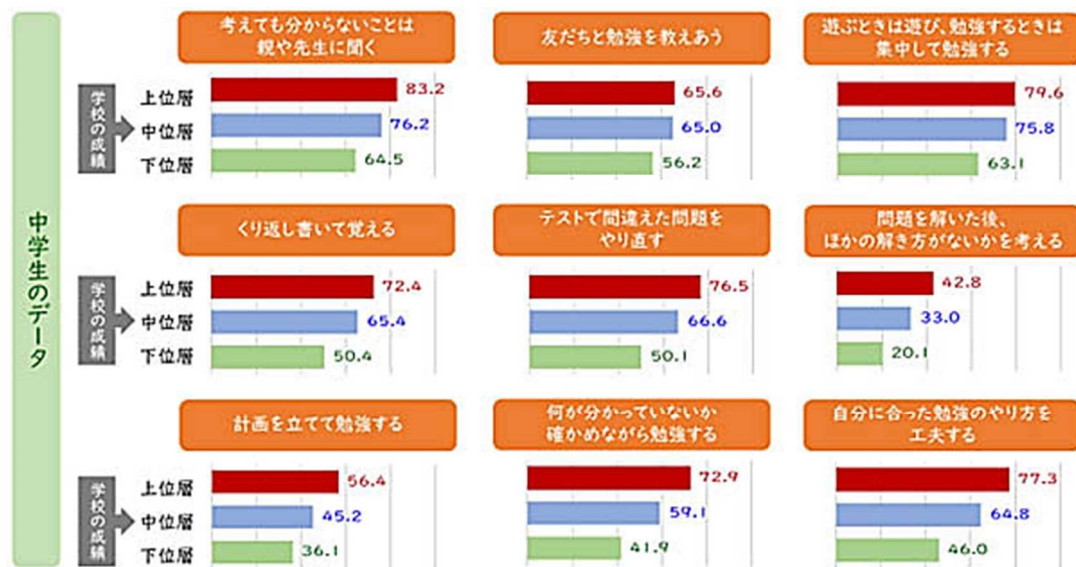
グループワークやディスカッションに積極的

計画を立てて勉強した

> まじめに授業に出席

「学習に有効な『メタ認知』を育てる！ウィズコロナで学びを止めないために(2)」では、ベネッセが考える学習方略と成績との関係を下図のように示されていました。

図：学習方略（学校の成績別） ※数値は「よくする」と「ときどきする」の合計%



出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」2018
 ※中学生2,967名による回答。「よくする」「ときどきする」「あまりしない」「まったくしない」の回答のうち、「よくする」と「ときどきする」を合計した。
 ※学校の成績は、小学生は国算理社、中学生は国数理社英の自己評価の合計を、上位層、中位層、下位層のそれぞれが1/3ずつになるように分けた。

注目したのは、上位層と下位層の開きが大きい項目です。

- ・テストで間違えた問題をやり直す。(26.4%差)
- ・何が分かっていないか確かめながら勉強する。(31%差)
- ・自分に合った勉強のやり方を工夫する。(31.3%差)

これらをまとめると、現在の自分自身がどのくらい理解しているか確認したり、自分に合った学び方を選択したりすることが最も重要なことが分かります。したがって、授業の振り返りでは、その時間の学習内容も大事ですが、自分はどのくらい理解しているか、どんな学び方をしたのかを確認することも重要です。

このような考察を踏まえ、小須戸小の授業や家庭学習はどのように進めていくのがよいのでしょうか。下記のようなことが考えられますが、その中でも振り返りの改善を最重要課題として全員で取り組みます。次号で具体的な取組方法を提示します。

授業では、

- ・授業のゴールを明確にする。
- ・学習意欲を高める工夫をする。
- ・グループワークや話し合い活動を取り入れる。
- ・事前にバリアを見付け、オプションを用意する。
- ・振り返りで、自分がどのくらい理解できたか形成的評価をしたり、どんな学び方をしたかを子どもたちと確認したりする。

家庭学習では、

- ・自分で計画を立てられるように支援する。
- ・興味がある課題をやるように促す。
- ・自分に合った学び方や自分に必要な学びに気付ける工夫をする。
- ・学習時間の確保は大事だが、自分に合った学び方の一つと捉える。